

勇気を出せ！

シリーズ～預言者の声～

2022/11/6

バビロン捕囚

- 国を失ったイスラエル

- 主が預言者たちを通して繰り返し与えられた警告を無視し続けた
- 北イスラエル王国はアッシリアに(BC722年)、南ユダ王国はバビロンに(BC586年)滅ぼされた

- エレミヤの預言

- 「バビロンに七十年の時が満ちたなら、わたしはあなたたちを顧みる。わたしは恵みの約束を果たし、あなたたちをこの地に連れ戻す。」エレミヤ29:10

- 捕囚地で

- 南ユダ王国の民の一部はバビロンに連行された
- エゼキエルは居留地で預言した
- ダニエルはエルサレムの回復を祈った

エズラ記1章1～3節

ペルシアの王キュロスの第一年のことである。主はかつてエレミヤの口によって約束されたことを成就するため、ペルシアの王キュロスの心を動かされた。キュロスは文書にも記して、国中に次のような布告を行き渡らせた。「ペルシアの王キュロスはこう言う。天にいます神、主は、地上のすべての国をわたしに賜った。この主がユダのエルサレムに御自分の神殿を建てることをわたしに命じられた。あなたたちの中で主の民に属する者はだれでも、エルサレムにいますイスラエルの神、主の神殿を建てるために、ユダのエルサレムに上って行くがよい。神が共にいてくださるように。」

主の約束は成就した！

- キュロスの勅令(BC538年)
 - 前年にバビロンを倒したメディア・ペルシャの王キュロスは、バビロンにいた捕囚民をそれぞれの神々を礼拝するために帰らせた
 - この年は最初のバビロン捕囚から68年目に当たる(約70年！)
- 主の神殿を再建するために帰った人たち
 - 「主の神殿を建ててのために、ユダのエルサレムに上って行くがよい」
 - エズラ記2章の名簿によると、約3万人である

神殿再建

- 帰還した翌年、神殿の基礎が完成した
 - 「昔の神殿を見たことのある多くの年取った祭司、レビ人、家長たちは、この神殿の基礎が据えられるのを見て大声をあげて泣き、また多くの者が喜びの叫び声をあげた。」(エズラ記3:12)
- 敵による妨害(王に送られた手紙)
 - 「王のもとからこちらに上って来たユダの者らがエルサレムに着き、反逆と悪意の都を再建していることをご存じでしょうか。…もしその都が再建され、城壁が完成しますと、彼らは年貢、関税、交通税を納めず、王に次々と損害を与えることになるに相違ありません。」4:12-13

工 事 中 断 !

ハガイ書1章1～9節

ダレイオス王の第二年六月一日に、主の言葉が預言者ハガイを通して、ユダの総督シェアルティエルの子ゼルバベルと大祭司ヨツアダクの子ヨシュアに臨んだ。「万軍の主はこう言われる。この民は、『まだ、主の神殿を再建する時は来ていない』と言っている。」主の言葉が、預言者ハガイを通して臨んだ。「今、お前たちは、この神殿を／廃虚のままにしておきながら／自分たちは板ではった家に住んでいてよいのか。今、万軍の主はこう言われる。お前たちは自分の歩む道に心を留めよ。種を多く蒔いても、取り入れは少ない。食べても、満足することなく／

飲んでも、酔うことがない。衣服を重ねても、温まることなく／金をかせぐ者がかせいでも／穴のあいた袋に入れるようなものだ。万軍の主はこう言われる。お前たちは自分の歩む道に心を留めよ。山に登り、木を切り出して、神殿を建てよ。わたしはそれを喜び、栄光を受けると／主は言われる。お前たちは多くの収穫を期待したが／それはわずかであった。しかも、お前たちが家へ持ち帰るとき／わたしは、それを吹き飛ばした。それはなぜか、と万軍の主は言われる。それは、わたしの神殿が廃虚のままであるのに／お前たちが、それぞれ自分の家のために／走り回っているからだ。

預言者ハガイを通しての警告

- 再建工事が中断されて十数年経っていた！
 - 主の言葉が指導者たち（総督ゼルバベル・大祭司ヨシュア）に臨んだ（6月1日）
 - 彼らは「再建するときは来ていない」と言っていた
- 帰還民は自分の家を優先していた
 - 「お前たちは、この神殿を／廃虚のままにしておきながら／自分たちは板ではった家に住んでいてよいのか。」
- その報いを受けている
 - 「種を多く蒔いても、取り入れは少ない。食べても、満足することなく飲んでも、酔うことがない。衣服を重ねても、温まることなく／金をかせぐ者がかせいでも／穴のあいた袋に入れるようなものだ」

神殿再建に取りかかる

- 主の言葉によって再建に取りかかった(24日)
 - 「主が、ユダの総督シャルティエルの子ゼルバベルと大祭司ヨツアダクの子ヨシュア、および民の残りの者すべての霊を奮い立たせられたので、彼らは出て行き、彼らの神、万軍の主の神殿を建てる作業に取りかかった。」(14)
- 再び励ましの預言(7月21日)
 - 「お前たち、残った者のうち／誰が、昔の栄光のときのこの神殿を見たか。今、お前たちが見ている様は何か。目に映るのは無に等しいものではないか。今こそ、ゼルバベルよ、**勇気を出せ**と／主は言われる。大祭司ヨツアダクの子ヨシュアよ、**勇気を出せ**。国の民は皆、**勇気を出せ**、と主は言われる。働け、わたしはお前たちと共にいると／万軍の主は言われる。」2:3-4

「勇気を出せ！」

- 3回繰り返される命令
 - ヘブライ語では“ハザク”
 - 英語の聖書では“Be Strong”（強くあれ/新改訳）
- <信仰>と<勇気>は表裏一体
 - 主の言葉に従うためには、必ず信仰（勇気）が必要である（>恐れ）
- 主は私たちが弱虫であることを知っておられる
 - だから繰り返し「勇気を出せ（強くあれ）」と言い続けておられるのである
 - そして「わたしはお前たちと共にいる」と約束して下さる

ゼルバベルよ、勇気を出せ。

ヨシュアよ、勇気を出せ。

——— よ、勇気を出せ。

国の民は皆、勇気を出せ、

と主は言われる。